

1-4-7. 南大隅町企画観光課（鹿児島県南大隅町）

（1）アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】7,757 人

【面積】213.57 km²

【地勢】

鹿児島県大隅半島の南部に位置し、錦江湾と太平洋に面している。豊かな自然を生かした農業や畜産などの一次産業が主産業であり、海に面した地域では漁業も盛んである。起伏の多い地形が多く、居住面積割合は低い。

【気候、自然】

北緯 31 度を通る佐多岬周辺を含め、全体的に温暖な気候である。亜熱帯植物が生い茂る佐多地区にはソテツ自生地も存在し、雄川が流れる根占地区はヘゴ自生地の北限でもある。雄大な自然が生み出す清涼な空気と水があり、南国情緒が溢れている。

【歴史】

旧根占町と旧佐多町が平成 17 年 3 月 31 日に合併し誕生。約 450 年前、本町を流れる雄川河口の港で貿易を行っていた唐人と南蛮人による勢力争いを鎮めるため、当時の領主であった祢寝（ねじめ）氏が開催したこととされる、南蛮船（龍船）競争が現代に再現された「ドラゴンボートフェスティバル」をはじめ、佐多の「御崎祭り」など、文化的価値の高いイベントが催されている。また、西郷南洲翁宿泊の家や薩英戦争時の砲台跡地が残る台場公園、佐多旧薬園等の歴史的建造物もあり、その中でも、2 基の鳥居の並ぶ諏訪神社は、本殿の造りやその年代も踏まえて貴重なものである。

【観光】

数々の自然を生かした観光の中で代表的なものの中に、北緯 31 度線上に位置する佐多岬灯台がある。この灯台はイギリス人の設計により明治 4 年に完成。昭和 20 年の空襲で焼失し、現在の灯台は昭和 25 年に復旧したもの。また、近年注目を浴びている雄川の滝はエメラルドグリーンに輝く滝つぼと、独特の壁面を有した滝で、その神秘的な景色が人々を魅了する。また、南大隅町は壮大なロケーションを活かしたビュースポットが多数存在し、パノラマパーク西原台やゴールドビーチ大浜などはその代表である。

【地域資源の概要】

特産品では亜熱帯と温帯の環境の中で熟成されるタンカンをはじめとする柑橘類やマンゴー、県のブランド指定をされている春ばれいしょ等があり、その中でも特に根占沖で養殖された「黄金ねじめカンパチ」は「かごしまのさかな」として認定されるなど、県内外で高い評価を得ている。また、ねじめびわ茶や佐多シャーベット、たんかん・塩ソフトクリームなども、南大隅町の土産品として喜ばれている。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

平成 30 年の佐多岬リニューアルに向け、周辺地域の景観美化や環境整備に関する取り組みを実施しているところであるが、行政と地域とが協力して新しい観光の商品化に取り組むための手法やノウハウについて検討すること、また地域や観光関係者と共通意識を持つことを目的とする。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 29 年 2 月 27 日（月）～平成 29 年 3 月 2 日（木）
場	所	鹿児島県 肝属郡 南大隅町
ア	ド	イ
バ	イ	ザ
ー		吉見精二氏（地域観光プロデュースセンター代表）
参	加	者
		計 10 名 ・ ツーリズム協議会副会長 ・ 物産協会会長 ・ 商工会会長、局長 ・ 観光協会会長 ・ 経済課 ・ 企画観光課から 3 名
スケジュール・方法		南大隅町内における主要観光地の視察をはじめ、まだ整備の整っていない観光地の視察、飲食店経営者や生産者、地域住民（自治会長等）とのヒアリング等を通して得た情報を元に、最終段階で講演会を開催し、南大隅町内における観光関係者とのディベード形式による協議を実施した。その中で、今後の南大隅町の在り方や、自然を活用した観光の商品化に向けた取り組み等についてご指導いただいた。 【1 日目】 15：20～18：00 現地視察 （雄川の滝、諏訪神社、なんたん市場、ねじめ温泉ネッピー館） 【2 日目】 8：30～17：50 現地視察 （なんきゅうフェリー、佐多岬、田尻自治会、サウスマックス、大泊地区、さたでいランド、旧薬園、ゴールドビーチ大浜、道の駅ねじめ、ウミガメを守る会） 【3 日目】 8：30～13：00 現地視察 （パノラマパーク西原台、辻岳、台場公園） 15：00～17：00 講義 【4 日目】 8：30 役場挨拶、報告 9：00 空港へ

(3) アドバイスの内容（議事録）

◆2月27日

- ・鹿児島空港に11時50分に到着し、南大隅町公用車（アテンド企画観光課日高）にて南大隅町へ向かう。道中、町の情報や、本事業中に視察していただく主要観光地等の資料をお目通しいただいた。また、口頭での質問に回答し、町の施策や方向性についても情報の提供を行った。
- ・15時に本庁へ到着し、町長（森田俊彦）表敬及び企画観光課長（竹野洋一）への挨拶と本事業の説明を行い、雄川の滝へ向かう。
- ・遊歩道を歩き、雄川の滝への視察を実施。導線上の不足した部分の指摘や、観光地としての在り方についてご検討いただく。その後、諏訪神社の成り立ち等説明しながら現地視察を行った。（並立鳥居や赤塗の話）
- ・廃校となった旧宮田小学校へ向かい、活用状況等を説明しながら、その貴重な立地条件等についてご講評いただく。
- ・なんきゅうフェリー発着所へと向かい、フェリーの活用状況及び指宿市や南九州市との広域連携について説明後、同施設内にある合同会社岬を訪問し、鶴園さん（事務員）から、会社の経営状況や関連施設、また南大隅町の現状等についての情報をご提供いただいた。（ヒアリング）
- ・宿泊所である「ねじめ温泉ネッピー館」へ18時頃到着。館長（須崎さん）に、現在の運営形態に至るまでの経緯をご教示いただく中で、南大隅町で運営していくための苦労、努力等についてもお話しいただいた。（宿泊中の食事、温泉施設、また全体を通した施設運営形態等についての視察を兼ねる。）

◆2月28日

- ・宿泊所を8時30分に出発し、佐多岬へと向かう。佐多街道（海岸線）の景観美化や、伊座敷商店街の状況について講評をいただきながら、佐多地区の各集落の一部についても現地にて視察を実施。（伊座敷、島泊、尾波瀬、大泊）
- ・佐多岬ロードパークを通る中で、観光資源となりそうなモノについてアドバイスをいただく。「陸の孤島」と称し、離島のような感覚になる本エリアについての評価をいただいた。また、31度線モニュメント、エントランスも見ていただき、佐多岬の現状について視察した上でその価値にご講評をいただき、今後の観光地としての開発の仕方や、付帯施設の必要性等についてアドバイスをいただいた。併せて第二駐車場の不要性についてもコメントをいただく。
- ・田尻地区では、塩生産者（サウスマックス森さん）の作業場を訪れ、森さんから南大隅町で塩作りを始めたきっかけ、塩作りに対する想いを語っていただいた上で、若者の活気や可能性についてご講評いただく。また、体験型メニューに関する手法や、個人型観光の推奨をしていただいた。
- ・さたでい号発着所にて田尻海岸の状況確認をし、田尻自治会長（濱田さん）とのヒアリングを実施。釣り客の民泊や田尻自治会の可能性を語っていただいた上で、地域の力の必要性やその価値についてご指導いただいた。
- ・ホテル佐多岬の現状を視察し、佐多岬と直結するホテル経営の実態を確認した。また、大泊自治会長（田中さん）にもご足労いただき、大泊自治会の活動状況、帰省者等の情報についてご教示いただいた上で、自治会の活性化（自主活動）を促していただき、同時にその貴重さについてご教示いただいた。
- ・大泊から外之浦（とのうら）→間泊（まどまり）→竹之浦（たけのうら）と移動する中で、間泊にて地域住民と接触。単身世帯の増加や高齢化が進む町の中で、今なお残る自治コミュニティの存在を確認するとともに、その重要性について再確認した。
- ・浜尻海岸及び浜尻キャンプ場を視察。砂浜や、その形状等を評価していただき、この素晴らしい情景について、町からより多くの情報を発信することの必要性についてご指導いただく。
- ・さたでいランドでは、週末営業の実態や、観光客の入れ込み状況をご説明し、少子化が進む社会の中での施設現状をお伝えし、視察していただいた。

- ・佐多旧薬園を視察後、自転車競技場へと向かい、狐塚公園の立地条件の悪さや活用しにくい旨の評価をいただく。また、なんたん市場の現状を把握。
- ・渚を守る会（中村さん、寺田さん、西さん【自治会長】、前田さん）とのヒアリングを実施し、ウミガメ保護に関する活動内容を聞き取り調査した。その中で、会員が持っている構想を実施していく上でのアドバイスを頂戴し、また、夏休みを利用した長期滞在型の誘客促進のアイデアをいただく。同時に自然保護の観点からも、継続した活動の必要性を説かれ、行政との連携の必要性や、環境省を巻き込んだ活動を展開していくことを推奨された。

◆3月1日

- ・パノラマパーク西原台への視察を実施。錦江湾を一望できる環境及び、パノラマパーク西原台へのアクセス及び周辺の景観美化に関すること、また、サイン等の必要性についてアドバイスをいただく。
- ・辻岳への登山を実施。時間の都合により、短時間で歩ける登山道を選択したが、斜面が急すぎる点や、所要時間が短すぎる点を踏まえ、登山愛好家が楽しめる行程でないことをご指摘いただく反面、登山未経験者でも登ることに抵抗が無い点で評価いただいた。また、頂上の広さとその眺望の良さから、トレッキング等の推奨地とされた。サインや町の中心部からの案内が必要。
- ・味の大砲では、地元でとれる新鮮な食材や、店内からのロケーションの評価が高く、また、他にはないリーズナブル価格やボリュームに好評価をいただいた。

※講演会の実施

◆3月2日

- ・南大隅町役場へ事業の報告をして空港へ出発。道中、今後の南大隅町のやるべきこと、体制づくり、観光の商品化、交付金の活用方法等、昨日の講演会で出席者から得た情報等を交えた形でアドバイスしていただく。

◆講演会について

- ・大きな地域ブロックを形成した事業の取り組みの必要性。
- ・保全→それを活かした観光→地域振興のサイクル。
- ・「観光とは地域の良さを再発見すること」
- ・サイクリングに関して、周遊型（滞在型）の観光の仕方を検討。
- ・資源台帳の作成を推奨。
- ・テレビや雑誌等のメディアを活用した目立つアプローチの重要性。
- ・体験プログラムの開発。
- ・シーズンパンフレット作成を検討。
- ・「有名観光地でないのは魅力」
- ・「半島ネットワーク」ならぬものを作って過疎地域の活性化。
- ・「環錦江湾ツーリズムネットワーク」（鹿児島市、指宿市、霧島市、鹿屋市、垂水市、錦江町、南大隅町）
- ・国立公園満喫プロジェクトを活用して、小さなことからコツコツと。

○観光協会

- ・佐多岬、雄川の滝の再開発。
- ・西郷どんブレイクにより、鹿児島市内からこちらに足を運んでもらえるような仕掛けづくりの必要性。
- ・自転車競技場の活用。
- ・辺塚地域の資源（辺塚ランや辺塚照葉樹等）の貴重性。
- ・ボタニカルファクトリーの体験型。

○物産協会

- ・佐多岬、西郷どん、自然に力を注ぎたい。
- ・今まであった観光ルートの再構築もできるのでは？

○商工会

- ・ 観光客の受け入れ態勢が整っていない点。
- ・ ドラゴンボートの周知。
- ・ バイク、キャンプ（高級キャンプ）の特化。
- ・ 佐多岬にはロマンスがある。
- ・ 新たなモノを求める観光客、インバウンドが未開の地を求めている。
- ・ 個人客はリーズナブル傾向にある。

○ツーリズム協議会

- ・ 民泊の権利を取得したい。
- ・ 農業体験、織物体験。

○経済課

- ・ 商品としてモノができすぎていて、何かひとつに絞りにくい。
- ・ ふるさと納税にかわる仕組みづくり。

～まとめ～

○自然

- ・ ソテツ、ヘゴ、辺塚ラン

○体験

- ・ 塩づくり体験、織物体験、ボタニカルファクトリー

○滞在型

- ・ 農業、ウミガメ保護活動、自転車、民宿

○物語

- ・ 佐多地区、佐多岬

※プラン

- ・ ウミガメ保護活動にちなんで、長期滞在型の民泊の観光商品化。夏休みを活用し、子どもたちに保護活動を体験してもらおうというもの。
- ・ 佐多岬来訪者と民泊をセットにすることのモデル化を形成

※キーワード

- ・ 南大隅町ツーリズム（自分たちに合ったツーリズムの形）
- ・ 南大隅町スタイル（他にはないオリジナル性）
- ・ 地域自慢コンテスト（地域の情報発信の方法の多様化）

■現地視察、ヒアリングの様子



■講演会の様子



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

民泊の実施の仕方、現在実施している活動からの観光商品化、またこれらの商品としてのモデル化等、具体的な活動形態を示唆することにより、今後の取り組みに対しての士気を高めるとともに、有名観光地でないことの魅力や可能性についてご講義いただいた。

2) 今後、期待される効果

既に地元住民が実施している自然保護活動を通した観光商品のモデル化や、滞在型民泊の実施等。

3) 今後の取り組み

観光客を呼び込むための具体的な商品化の手法や、本町が持っている観光素材そのものを取り上げていただいたことにより、観光関係者にとって、エコツーリズムを通した観光モデルの商品化が身近な目標であることを伝えられた。そのことにより、今後の取り組みに対しての士気を高め、より活発な地域活動や、幅広い範囲での活躍、また行政等との連携による事業の拡大等が期待される。

(5) 今後の取り組み推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

有名観光地ではないことの魅力、大きく活動を実施するための方法（広域連携や情報配信等）、独自のスタイルの面白さ、物語（歴史背景）の重要性等。

2) その他感想

本町にはなかなか気づけない魅力や、現在存在している商品の良さに注目していただき、自然に関することや、自然を活用した本町全体の可能性を再発見できた。また、講習会の中で、観光関係者からたくさんの情報や地域の声を収集することができた。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

吉見 精二氏 (地域観光プロデュースセンター)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

南大隅町は、鹿児島県の大隅半島の南部にあり日本本土最南端の佐多岬を有し霧島錦江湾国立公園に属しており、平成 28 年に環境省の「国立公園満喫プロジェクト」の 8 つの国立公園の一つとしても選定されている。南大隅町でも、大隅半島のシンボリック存在である佐多岬整備を 2030 年完成に向けて進めている。これらの機会を捉え、新たな取組みにより交流人口を増やすべくエコツーリズム等の取組みを始めようと動き出している。

②課題

そこで、南大隅町が観光客の増大による地域活性化を図るためには、従来型観光にこだわらず新しいニーズに応えられる地域の資源を活かした「自然ふれあい」型の交流ツーリズムの開発と、地域の自然や文化の保全に対して地域住民の意識を高めるエコツーリズム推進に取り組むことが賢明な策である。そこで、「美しい自然と共存する」魅力あふれる地域づくりと観光の基盤をつくる必要があり、観光コンテンツの整理や周遊ルートの開発、情報発信の方法、それを支える地域住民のネットワーク化などが課題として挙げられる。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

【自然・体験・学習の資源】

- ・「雄川の滝遊歩道」のウォーク：1.2 キロ所要 90 分、高低差少なく誰にでも歩ける。
- ・「大浜海岸（ウミガメ産卵地）：開聞岳を向かいに錦江湾に沈む夕日は素晴らしい。
- ・「佐多岬展望台」：有料道路が無料化され大駐車場が完備される。日本本土最南端。
- ・「辻岳」登山：標高千メートル弱で西口登山道から 40 分で頂上。急な坂道。展望絶景。

【環境保全・暮らしの資源】

- ・「サウスマックス」：佐多岬の海水を月 2 回くみ上げての窯と薪を使った塩づくり。
- ・「渚を守る会」：ウミガメを守る活動を集落の人たちがボランティアで展開している。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

海・山・海浜の里、まち近くの農の活動など、南大隅町ならではの自然に恵まれている。一般観光の資源として知られているものには佐多岬があるが、その他の魅力的な資源は手に取って見せられていない。そして、その魅力的な資源は多彩に存在する。そこが南大隅町の隠れた魅力であり、可能性を秘めているといえる。

3) アドバイス（講義等）の概要

【研究会出席者】

「南大隅町のエコツーリズム等の取組みの在り方研究会」として開催。町長はじめ議会議員、議員にも出席を願い、観光協会、物産協会、商工会の各会長職、事務局、地域住民としてはツーリズム協議会から、町からは企画観光課長、経済課課長補佐が出席された。

【研究会でのアドバイス】

エコツーリズム推進による地域活性化を目指そう！

最初に話題提供として、パワーポイントでプレゼン。

「地域資源を活用したエコツーリズムを成功に導くポイント」

～「南大隅町ならではのエコツーリズムの未来可能性について」～を 30 分お話した。

内容は概ね、

- ・地域を元気にするエコツーリズムの価値
- ・日本型地域づくりエコツーリズムの事例紹介～飯能市、南丹市美山、滋賀県内
- ・地域資源「宝探し」の手法と活用
- ・エコツーリズム推進DMOの構築
- ・国の地域活性化支援策の活用について説明

南大隅町の着地型旅行商品化整理をしてみよう！

ワークショップ的形式（ワークシート活用）による全員発表

～みんなで“地域自慢を”しよう！の意見発表～を 60 分

特に、ビジョン・将来展望（未来図）について重点的に問いかけ意見を求めた。

参加者全員が、各分野での活動報告や現状課題と未来の抱負を述べた。

ワークショップの後の「アドバイス」

～アイデアを具現化しよう！「アドバイスのポイント」～

- ・「南大隅町の地域観光には未来可能性がある！」。しかし、魅力ある地域資源が活かされているか？新しい観光の潮流「ニューツーリズム」に対応できているか？
- ・交流人口の拡大による地域活性化のためには、地域の総合的魅力的創造・活用が必要で、特に地域人材の活用がポイントである。そして、行政主導で地域のあらゆる主体とのコラボレーション（協働）による観光地域づくりに取り組む必要がある。
- ・新しい観光のニーズに対応できる地域の伝統文化・食の活用による「体験交流型」のプログラムの充実化と、新しい「物語づくり」に取り組むことが重要であること。
- ・それらを旅行商品化して集客を目的としたサイトの構築によりダイレクトに集客する「南大隅版DMO」プラットフォームを構築することが望まれること。

講師から「南大隅町の未来に託す提案」

- ・これらを進めるプロセスとして、地域をまるごと巻き込んだ「南大隅町の観光創生未来塾」の開講により、地域人財の発掘と育成を図ることを提案した。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

現段階では、エコツーリズム推進のファーストステップを踏み出した段階である。

②全体構想策定への意向について

エコツーリズムアドバイザー派遣申請では、「意向はない」とされているが、今回の研究会でのアドバイスや意見交換の内容からは、「全体構想策定」にも関心があった。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

「国立公園満喫プロジェクト」の 8 つの国立公園の一つとして選定された地域に含まれていることは、いま、「エコツーリズム推進全体構想」の認定を受けて本格的にエコツーリズム推進に取り組む地域として相応しく地域活性化につながるので、機運が高まるようアドバイスした。今後、期待が持てる行政の推進体制があると評価。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

最初の一步を踏み出してほしい！

いま、地方創生のなかで「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われている。とくに、地方は人口減少などの直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。南大隅町も同様の課題を抱えている。しかし、南大隅町には「豊かで個性的な自然がある。南大隅町ならではの固有の地域文化がある」ことを活かして、尖がった取り組みを推進することで、成功のモデル事例の創出に踏み出すべき絶好の時期。

「南大隅型エコツーリズム」の創出を！

それには、エコツーリズムの取り組みが基本理念として明確な目標になる。すなわち、エコツーリズム推進とは、①環境保全×②観光振興×③地域振興のトライアングル・円運動により南大隅型のまちを元気にしていく運動である。

南大隅型のエコツーリズムとは、①身近な自然、②歴史、③生活文化をテーマにしたエコツアーを創り上げることである。そして、地域の人々が持つ古くから伝承されてきた生活の知恵、衣食住の技術を「宝もの」として再発掘し、磨き上げて、活用していくことだ。地域の人たちが主役になってふれあいを楽しみ、エコツーリズムの楽しさを感じられるエコツアーを地域の人たちと行政が協働による創意で創り上げて行ってほしい。

「エコツーリズム推進全体構想」の認定にもトライを！

そのためにも、地域の未来の羅針盤として「エコツーリズム推進全体構想」の認定の取り組みにも着手して欲しい。地域の環境保全とエコツーリズム推進の両輪による地域活性化を目指すことを提案する。

住民参加型の「地域まるごとエコツーリズム」を！

まず、「地域まるごとエコツーリズム」推進を町内で運動化することが最初の一步。地域住民の日々の営みが元気でなければ、そとの人たちは魅力を感じないでしょうし、訪れはしない。「交流型ツーリズム」の取り組みが、「地方の元気創造」の好循環を創出する。地域の暮らしの誇りを伝え、地域住民と来訪者の出会いの場づくりを第一義とする「南大隅型エコツーリズム」の創出を期待する。

着地型観光推進のプラットフォーム機能の構築を！

最後に、地域の魅力を伝えて地域に人を呼び込む流通を創出するための情報発信、着地型旅行商品の販売システム化、基盤構築を進める必要がある。持続的な事業推進へとつなげるための組織として、地域の着地型観光推進のプラットフォーム機能を構築することが望まれる。いわゆる「地域版DMOの構築」による「地域創造観光」の推進に大胆に取り組んでほしいものと願っている。